

イロイロく色彩に見る都城の歴史

◎問い合わせ 都城島津邸 ☎23-2116

「色」をテーマに、都城島津家伝来の甲冑・武具類や調度類を通して、各時代の社会情勢、絵師・職人の置かれた職制構造などの歴史をたどる中で、武士たちが色彩に込めた意味と役割をひもときます。

色を纏う

武士の伝統的な戦闘服である大鎧が成立したのは、平安時代の頃です。装具には草花などの意匠をかたどり、色鮮やかな威が施された作例が残っています。武士にとって、甲冑の意匠はひときわ重要視され、用いられる素材・機能に応じて色彩が選ばれました。そして選ばれた色に対し、武士たちは戦勝や武勇の象徴としての役割を見出したのです。



「白紫系段威大鎧」
(個人蔵、都城島津邸寄託)

色を飾る

鎌倉時代に武士が台頭すると、従来の公家文化を基に武士の質実剛健な気風に合わせた武家文化が生まれ、発展していきました。武士にとって文化とは単なる心の安らぎではなく、時には政治的な交渉といった重要な場面で必要となる教養でもあったのです。

習得した文化的教養や美しい色彩の工芸品類は、戦乱の時代を経た江戸時代においても、幕府の役人や藩主との関係構築に大いに活用されました。



宮崎県指定文化財「玄武時絵鞍籠」



【修復後初展示】宮崎県指定文化財「芦雁図屏風」(左隻)



宮崎県指定文化財「四季花東図小襖」

企画展の概要

●会期 7月11日(土)～9月27日(日)

※月曜日は休館(祝日の場合はその翌日)

●開館時間 9時～17時

※入館は16時30分まで

観覧料

一般220円(160円)

大学生・高校生160円(110円)

中学生以下無料

※(一)内は20人以上の団体料金。詳しくは、市ホームページを確認ください

企画展関連イベント

講演会「甲冑における色と意匠」

●日時 8月8日(土)13時30分
●会場 コミュニティセンター
●定員 70人

講師

西岡甲房 甲冑師
西岡 文夫さん

(文化庁選定保存技術「甲冑修理保持者」)



●7月10日(金)から予約フォームまたは電話で都城島津邸



社会復帰を支える地域の力 保護司の活動を紹介します

犯罪や非行をした人の社会復帰を支える保護司。国の委嘱を受け、全国で4万6千人、都城地区では86人が立ち直りの支援に取り組んでいます。

保護司とは

犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支えるボランティアです。主に次の活動を行います。
・面接や訪問を通じて見守ったり、相談に応じて助言を行ったりする保護観察など
・刑務所や少年院に収容中の人が、退所後スムーズに社会復帰するための環境整備や、犯罪防止のための啓発活動

社会を明るくする運動

保護司の犯罪予防啓発活動の一つである本運動。全ての国民が犯罪や非行の防止と罪を犯した人らの更生について理解を深め、非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動です。立ち直りを支える家庭や地域をつくるため、一人一人が考え、参加するきっかけになることを目的として、毎年7月を強化月間に定め、普及啓発に努めています。

寄り添い、見守り 社会復帰を支える



都城地区保護司会 保護司 福重ひとみさん

定年退職後に保護司の活動を始めました。近年は若者の薬物使用や特殊詐欺などの犯罪も増えていて、居場所づくりを支え、再犯を防ぐという保護司が担う役割の大切さを改めて感じています。

保護司も高齢化が課題で、新たな担い手が求められています。更生支援と聞くと思いがちかもしれませんが、大切なのは相手の話をよく聞いて、寄り添い、見守ることだと思っています。活動に関心がある人は問い合わせください。

☎都城地区保護司会 ☎36-5105

7月は愛の血液助け合い運動月間 安全な血液の安定確保のため、献血に協力ください

◎問い合わせ 日本赤十字社宮崎支部 都城地区事務局(福祉課内) ☎36-8711

献血は身近なボランティア

病気の治療や手術などで輸血を必要としている人に、健康な人の血液を提供することで、命をつなぐ献血。国内では、1日当たり約3千人が輸血を受けているといわれています。血液は、人工的に造ることや長期保存ができません。このため、日本赤十字社が中心となって、血液提供のボランティアとも言える「献血」を皆さんに呼び掛けている。

献血に協力ください

献血は、常設会場の献血ルーム(カリーン宮崎・宮崎市橋通東四丁目8-1)のほか、県内を巡回する献血バスで実施しています。ぜひ協力ください。

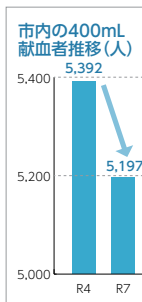


献血バスの運行スケジュール

日時や会場などは、宮崎県赤十字血液センターのホームページで確認ください。



☎宮崎県赤十字血液センター ☎098515011800



若い世代への呼びかけ

年々献血をする人が減少している、特に400mLの献血者は令和4年から減少しています。早い段階から献血に関心を持ってもらえるよ

